

平成26年度

事業報告書

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

平成26年度 事業報告書 (P1)

社会福祉法人 偕 恵 園
特別養護老人ホーム 椿 寿

平成 26 年度 特別養護老人ホーム椿寿 事業報告

深刻化する介護人材不足の中、平成 26 年度も人材確保を重要課題とし努力を行ってきましたが雇用の安定には至らず、常に人員配置基準を意識しながら運営をした 1 年間となりました。特に介護職員不足は深刻な問題であり、職員の確保が出来ない為、11 月から短期入所の受け入れを制限しなければならない状況となり（20 床→10 床前後に制限）、収入面また地域貢献の面においても多大な影響及ぼす結果となりました。施設設備については、問題となっていた外壁クラックの補修（保証内及び保証外）を終了し建物大型修繕に向け準備が整いました。介護支援においては入院を伴う事故が多く、入居者の安全確保に課題を残してしまったことは反省すべき点であり、再度、職員が一丸となって事故防止に向けたリスクマネジメントに取り組んでいきます。

多くの課題への対応に追われた平成 26 年度でありましたが、終末期ケアについては入居者・家族の希望に沿った支援にて充実を図り、過去最高の数となる看取りを実施したことで、本入居の稼働率を維持することができました。特養における看取り、重度医療の必要性については 5 年前から予測し、職員教育等の準備をしてきており、その成果が実を結んだことは今年度の大いなる収穫でありました。

1. 平成 26 年度事業の重点項目について

(1) 人材確保、継続雇用

人材確保の具体的手段としては合同就職面接会の参加（3 回）、ハローワーク・求人サイトでの継続的な募集、人材派遣会社への紹介依頼（依頼件数 53 件）、福祉系の学校訪問（9 校）、旭区と連携した生活保護受給者の雇用、児童養護施設の入所児童の就労体験受け入れ、総合職業技術校への求人募集といった様々な雇用努力を行ってきたが安定した人材確保には至らず、特に常勤介護職員の確保は困難を極めており、無資格の人材でも積極的に雇用し介護現場で育成することで人員配置基準をクリアした 1 年であった。

【職員常勤換算数（H26 年度平均値）】

職種	管理者	医師	生活 相談員	介護支援 専門員	管理 栄養士	看護師	機能訓練 指導員	介護 職員	介護 福祉士
基準数	1	—	2	1	1	4	1	40	20
常勤数	1	0.1	2	1.8	1	4.3	1.2	42.9	25.2

(2) 本入居、短期入所の稼働率の安定

医療的に重症者の方でも、嘱託医・家族・施設で密に連携を図りながら可能な限り最期まで支援し、本入居は昨年度とほぼ同じ 97.1% (-0.4%) を維持する。介護職員が不足した為、短期入所については 11 月より受け入れをセーブすることで適切な支援が継続出来る様に努めた為、79.8% と昨年比べ -16.4% と大幅にダウンした。

(3) 契約業者の見直し

施設設備の面では、エレベーター・ダムウェーターのメンテナンス会社を変更したことにより、年額で約 43 万円の削減、また消費量の多いオムツ、ペーパータオルについても契約会社を変更し年額で約 90 万円のコスト削減を図ることができた。

(4) 地域の方への在宅支援(地域貢献事業)

今年度も近隣の施設で協働し、地域住民を対象とした「健康」をテーマにした催し物を開催する。健康を意識しつつも健康診断を受けに行かれている方はほとんどおらず、地域住民の方々にご自身の健康状態を知って頂くきっかけとして有効だったと思われる。

(5) 終末期ケアの充実

終末期ケアを希望される多くの入居者、家族のニーズに応えるべく、嘱託医・施設・家族が連携を図り、また内容の濃いケアを実施し、過去最高となる 29 名の看取りを実施する。

2. 管理面について

(1) 総務課

- ① 多種多様な人材確保努力を行うも雇用の安定には至らず、配置基準ぎりぎりの職員確保に留まる結果となった。
- ② 数年前よりみられる外壁のクラック、施設内漏水等の責任について建物竣工会社と話し合いを重ね、問題のあるクラック及び、保証範囲外の小さなクラック計 27 箇所の補修を終了する。
- ③ 開所 10 年目にて防水層の保証が終了し、また建物全体の不備が多いことから、ハード面における安全性の確保に向け、大型修繕準備委員会を設置し、業者選定及び見積書を依頼した。
- ④ 契約業者の見直し、変更を行い、施設整備及び備品に掛かるコスト削減に努めた。
- ⑤ 介護職員処遇改善交付金を一時金として支給し、金銭的待遇面の向上を図った。

(2) 防災対策

- ① 消防計画に基づき年 2 回の総合避難訓練実施
- ② 消防設備法定点検年 2 回（外部委託）と毎月の定期自主検査
- ③ 消防査察対応
- ④ 防災マニュアルの見直しと利用者個人台帳の作成
- ⑤ 防災備蓄品の維持管理
- ⑥ 消防署との意見交換、職員研修

3. 支援面について

(1) 介護支援課

① 研修

職員不足により施設内・外研修は例年と比べ半分程度しか実施出来なかったことは、これまで資質向上に力を入れてきた椿寿としては残念な結果であった。

【施設内研修】(研修数 11 / 参加延べ人数 262 名)

月	テーマ	講師
4月	人権擁護（高齢者虐待防止・身体拘束廃止）	施設長
5月	事故予防・事故対策研修 ーヒヤリハットについてのグループワークー	篠原統括部長
6月	感染症予防・対策研修 ーセレウス菌・食中毒についてー	上野栄養課長
	中間管理職研修 ーリーダーとはー	篠原統括部長
	中間管理職研修 ー苦情対応研修ー	篠原統括部長
	外部研修発表 ー摂食・嚥下障害のリハビリテーション～誤嚥性肺炎の予防と対策ー	山田介護主任
7月	褥瘡予防	（株）光洋
11月	医療研修 ー薬についてー	秋本薬局
	感染症予防・対策研修	本山医務主任
	認知症に関する研修	佐藤介護課長
3月	ターミナルケア及びグリーフケアに関する研修	本山医務主任

【施設外研修】（研修数7／参加延べ人数7名）

月	テーマ	職種	人数
4月	高齢者施設での地震災害対策講座	介護課長	1
6月	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	介護	1
	平成26年度安全運転管理者法定講習	介護	1
9月	認定調査員新任研修	介護支援専門員	1
1月	スーパービジョンの理解と実際（計3日間）	介護	1
2月	食品衛生責任者講習会	栄養課長	1
	「急げ脳卒中！！～受診のタイミング～」	相談員	1

② 資格取得について

新たに介護福祉士1名、介護支援専門員1名が資格を取得し、また資格取得支援にて無資格の職員1名が介護職員初任者研修を修了した。

③ 苦情

本入居は0件であったが、短期入所で1件の苦情があり、内容としてはフロア移動した利用者の支援方法がしっかりと伝達されておらず、本人及び、家族に不快な思いをさせてしまったことによる苦情であった。今後は、フロア間の確実な申し送り、情報共有を図り、全体として統一した支援に努めていく。

④ 事故・ヒヤリハット報告

入居者の重度化、職員不足により介護現場が安定しない中、事故件数は34件（H25年度）→35件とほぼ同様であったが、横浜市へ報告する重大な事故については10件（H25年度）→14件と増える結果となり、特に入院を伴う事故が多くあったことは入居者の安全面に課題を残した。

ヒヤリハット件数についても157件（H25年度）→177件と増えたことから、事故対策委員会の役割を再度見直し、施設全体で事故予防に向けたリスクマネジメント、職員の育成に取り組む必要があるといえる。感染症については、11月～3月を感染症対

策強化期間とし、日々の予防に努めたことでインフルエンザ、ノロウイルス等の発生なく H26 年度を終えることができた。

【事故報告件数】

打撲	転倒	転落	表皮剥離	内出血	擦過傷	異食
1	11	5	3	6	1	1
薬	紛失	送迎ミス	通信ミス	請求ミス	食材管理	合計
1	2	1	1	1	1	35

*横浜市への事故報告件数・・・14件

【ヒヤリハット件数】

転倒	転落	擦過傷	内出血	誤嚥	
25	17	10	75	2	
表皮剥離	利用者トラブル	行方不明	忘れ物	その他	合計
15	1	4	8	20	177

⑤ 各種会議・委員会

日常運営会議 12 回、衛生管理委員会 12 回、感染症及び食中毒予防対策委員会 12 回、事故対策・事故予防委員会 12 回、虐待防止委員会 1 回、拘束対策委員会 3 回、褥瘡対策委員会 12 回、マニュアル委員会 1 回、職員会議 1 回

(2) 生活支援課

① 稼働率(%)

特養	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H25年度	99.0	97.9	99.3	99.3	98.0	98.0	97.8	97.6	95.4	93.9	98.1	96.1	97.5
H26年度	96.0	96.8	96.8	98.2	97.5	98.7	98.2	98.5	99.1	97.6	94.4	93.1	97.1
短期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H25年度	97.2	99.2	96.8	95.6	98.9	93.5	95.2	92.5	95.0	96.0	97.5	97.3	96.2
H26年度	95.7	99.8	97.7	95.8	99.2	99.2	98.9	78.0	52.3	54.2	44.1	43.1	79.8

本入居は前年度とほぼ横ばいの 97.1%を維持し、短期入所は前年度比 16.4%ダウンの 79.82%と、稼働率が大幅に減少した。(介護職員不足により、利用人数を 20 名→10 名前後にセーブすることで、適切な支援が継続できるように努めた。)

② 人権擁護の取り組み

入職時研修及び施設全体勉強会での人権擁護に関する研修会を行い、また、虐待及び不適切ケアが無いかを自己点検シートを行い、自己の介護を振り返る機会を設けることで意識向上を図った。

③ 苦情 0 対策

今年度は短期入所で 1 件の苦情を頂いた。フロア変更した方のケア方法が伝達しきれていなかったことをご不快な思いをさせてしまったケースであった。情報の共有を適

切に行い、その後の確認をしていけば防げたものであった。利用者・家族に苦しい想いをさせてしまった分、苦情を自分たちの資質向上のチャンスとして、報連相の徹底及びフォローに努めていくことを意識する機会を得られた。

④ 短期入所事業

今年度の目標であった”安定した稼働率”を実現することが非常に難しいと実感した1年だった。医療的な重症者も、前年度に引き続き施設全職員での連携及び嘱託医・地域医療機関との連携を強化し、積極的に受け入れをし、10月までは安定した稼働率で経過してきたが、介護職員不足により受け入れ人数を制限せざるを得なくなり、11月以降は約半分の稼働率で推移した。

稼働率の低下＝空床を作ることは在宅で介護を受けている方・している方にとって、社会福祉法人としての責任を果たせていないと言っても過言ではなく、適切な支援をする為とはいえ苦渋の決断であった。

⑤ 地域参加・地域貢献事業

近隣の地域ケアプラザで協働し、半年かけて企画し地域住民を対象とした「健康まつり」を開催した。

⑥ ボランティア

前年度よりもわずかだが個人的な活動者が増えており、次年度も活動人数及び活動内容の多様化に引き続き努めたい。

⑦ 実習生・体験学習・施設見学の受け入れ状況

実習生・体験学習の受け入れ状況は前年度と比較すると減少傾向であった為、次年度はより積極的に受け入れを実施していきたい。

(3) 医務室

① 入院者数

入院	人数	平均入院日数	平均入院延べ日数
H25年度	2.6人/月	24日/月	50日/月
H26年度	2.5人/月	9.5日/月	23日/月

② 入院者の主な病名 PEG交換(6名)、尿路感染症(4名)、肺炎(8名)、骨折(4名)、その他(10名)

③ 年間救急車要請 H25年度4回 → H26年度5回

④ 年間死亡者数29名のうち施設にて看取り29名(男性15名、女性14名)
平均年齢83歳

⑤ 入居者の重度化により医療的支援の必要な方が多くいることから、前年度同様、毎月45万円の医療対応助成金を受けている状況にあった。

(4) リハビリテーション

① 個別機能訓練実施数 : 年間総数 3,731名 月平均 311名

② 個別身体機能評価実施数 : 年間総数 412名 月平均 34名

③ 実施訓練内容 : 関節可動域訓練・筋力増強訓練・自動訓練・自動介助訓練・座位訓練・ベッド上基本動作訓練・起居動作訓練・立位訓練・移乗動作訓練・歩行訓練・物理療法・レクリエーション

(5) 栄養課

- ① 栄養状況の指標 : 低アルブミン血症 1.2%
BMI25 以上の肥満者 4.4% BMI18.5 未満のやせ 17.7%
- ② 療養食提供数 : 1日平均 18名
- ③ 減塩食数(非加算) : 1日平均 11名
- ④ 個別メニュー対応 : 1日平均 9名
- ⑤ 定期的な検査数値を基本とし、アセスメントからは他職種への支援内容、更には個人の嗜好調査を元に栄養マネジメントを実施。特に、嘱託医の意見は即時の対応に繋がっている。提供食の変更から2年経過するが、低アルブミン血症者の減少が見られた。
- ⑥ 調理職員への食品衛生マニュアルの研修を実施。